

火の用心
七日～九日
防火デー

全村民に
アンケート

るかという調査により
 ますと爆音が九十フオ
 ーン以上になるとラジ
 オ、テレビのボリュームを
 大きくしても全く聴取でき
 ず、テレビの場合には画面
 が乱れることもある。その
 ため主要なニュースを聞き
 違えたり楽しみにしている
 ラジオ、テレビの番組もき
 きとれず学習、復習の場で
 あり、憩いの場である家庭
 においても爆音による被害
 は計りしれないものがある
 ことがわかりました。この
 調査は村内三カ所に測定場
 所を定め、室内に測定器を

嘉手納村爆音防止期成会
 では、米軍機による爆音が
 私たちの日常生活や心身に
 どのような影響をあたえて
 いるかということを調査す
 ることにより爆音問題の根
 本的な対策をたてるため、
 きの十月十八日に各区の自
 治会長さんを通じておよそ
 三千枚の調査書を配りまし
 た。これは爆音による睡眠
 の妨害やラジオ、テレビの
 聴取妨害、家庭での学習妨
 害を始め、今後の爆音防止
 対策についての意見を聴取

しようというもので、八項
 が目からなる具体的なアンケ
 ートとなっています。
 全村民が素直な御意見をよ
 せていただくことによつて
 爆音が私たちに与えている
 実体を明らかにし、爆音防
 止のための有力な資料にし
 ようというものです。是非
 とも回答して下さいます

しようというもので、八項
 が目からなる具体的なアンケ
 ートとなっています。
 全村民が素直な御意見をよ
 せていただくことによつて
 爆音が私たちに与えている
 実体を明らかにし、爆音防
 止のための有力な資料にし
 ようというものです。是非
 とも回答して下さいます

おアンケート用紙の回収は
 各区の自治会長さんが行な
 い役所に提出されます。

おき、テレビやラジオから無騒音の時の各場合につき二メートル離れた位置で音量を七十五・八十フオンに調整し、爆音のある時と

民は戦後二十年余、戦時と
ななら変らない環境の中か
不安定な生活状態をつづ

今日の沖縄はよく復興か
ら発展の段階にあるといわ
れているが、独り嘉手納村

報告 経過 衝折 本土

止 防 音 爆

け最大の犠牲を強いられて いる。この苦衷を御賢察下 さいまして私たちの要請が 一日も早く達成できますよ う日本政府の御尽力をお願 いする次第であります。な お各関係者との懇談の要旨 及び発言内容は次のとお り。	宮城、吉浜 沖繩では爆音 の強度の差こそあれ殆んど の学校は、爆音被害を受け ているが特に嘉手納村は、 もともと飛行場に接近して いるため飛行音だけでなく 村落から僅か離れた場所で ジェット機のエンジン調整 が行なわれているために、	いつまでになされるのか不 明であるしエアコンデিশ ン装置がなされた場合、 これの維持運営費はど何が 負担するのか明確にされて いない。特に一般住民地域 に対しては、全くの無策で あり一日に百回以上も繰返 している爆音は七〇ホーン から百二十ホーンもあり一 日の爆音継続時間が平均し て二時間三十二分四十七秒 も発生している。村民は極度 に爆音の被害を被っている。	特選局長 嘉手納基地の爆 音がひどく附近地域への障 害があるということも理解 している。本土でも基地周 辺の整備は除々にではある がとりくんでいるので沖繩 もこれに準じて整備しなけ ればなるまい……要請の件 よく了解した。この問題を 日米協議委員会の議題とし てのせるかどうかは十分に 検討し皆さんの要請に答え るべく努力したい……………	爆音防止のための要請、陳 情並びに折衝は従来機会あ る度に、米琉並びに日本政 府に対して行なってきたが なんら具体的な回答に接し ていないが、現在嘉手納小 学校に一教室防音施設の工 事がなされている。これは モデル教室として作られて いる程度で、全校の改修が	米国の責任により 当然防止対策は講じられ るべきが本筋である。沖繩 対策委員会でもとり上げ早 く防止対策が講じられるよ うに努力をする。	床次議員 沖繩で実際に爆 音被害を受けているのは、 嘉手納の三校だけか、米琉 政府はなんの対策も講じて いないのか	嘉手納村爆音防止 対策期成会	副会長 宮城清郎 書記 吉浜朝永
--	---	---	--	--	---	--	---------------------------	-----------------------------

お知らせ！

本村では寄生虫を撲滅し明るく豊かな住みよい村づくりを目標に五月から一区を皮切りに寄生虫の検便を実施致しております。

寄生虫予防はなんと申しまして住民一人一人が寄生虫予防の目的をよく理解し自分自身の問題として積極的に取上げなければなりません。ここで寄生虫とは何かと申しますと、寄生虫にはコウ虫（十二指腸虫）カイ虫、ギョウ虫、フンセン虫等の種類があり、なかでもコウ虫は全住民の約四〇％位が感染しているといわれており、体の中に寄生虫が入るとあらゆる病気を併発します。「寄生虫は誰でももっているんだ。たかが寄生虫では死ぬことはない」と安易に考えていると大変なことになります。そこで村では住民の健康管理を憂慮し、保健衛生の問題から寄生虫予防撲滅対策の重要性を痛感し、検便を実施することに致しました。

住民が「寄生虫」について今一度正しく理解し検便に御協力下さいますよう御願い致します。

みんなの協力で私たちの村から寄生虫を追放しましょう。

